

お客様各位

株式会社 セゾン情報システムズ
HULFT 事業部

HULFT8 for zOS にて発生する問題について

HULFT8 for zOS において、下記の不具合を検出しましたので、ご報告申し上げます。
以下の内容をご確認いただき、ご対応をお願いいたします。

－ 記 －

1. 発生現象

導入マニュアル(1版～3版)のバージョンアップ手順に従い、HULFT Ver.8未満から Ver.8.1.0へバージョンアップ導入した場合 (VERUP6またはVERUP7の導入作業用 JCL メンバーを使用してバージョンアップした場合)、HULFT Ver.8未満の EBCDIC ユーザテーブル雛形 JCL を使用して EBCDIC ユーザテーブルの設定を行うと、HULFT ロードモジュールの内容が破壊され、下記の事象が発生します。

- ① 配信処理で EBCDIC から Shift-JIS コードに変換した場合
 - ・ EBCDIC ユーザテーブル 1 が有効になりません (コード変換エラー)。
 - ・ EBCDIC ユーザテーブル 2～3 を使用した場合、EBCDIC のデータが化けて変換されます。
 - ・ IBM カナ文字拡張(H)を選択した場合、EBCDIC のデータが化けて変換されます。
 - ・ 操作ログ出力時、システム動作環境の操作ログ EBCDIC コード(OPLEBCDIC)に IBM カナ文字拡張(H)を設定していた場合、操作ログに出力されたデータ内容が化けて変換されます。
- ② 配信処理で EBCDIC から EUC コードに変換した場合
 - ・ EBCDIC ユーザテーブルが有効になりません (コード変換エラー)。
- ③ 集信処理で EUC から EBCDIC コードに変換した場合
 - ・ EBCDIC ユーザテーブルが有効になりません (コード変換エラー)。
- ④ EUC の機種で結合した結合ファイルを、結合ファイル分解プログラム(XRBREAK)で、EBCDIC ユーザテーブルを使用して変換した場合
 - ・ EBCDIC ユーザテーブルが有効になりません (コード変換エラー)。

2. 発生原因

下記の原因で発生します。

- ① 導入マニュアル (1版～3版) の「バージョンアップ」の手順に誤りがあります。EBCDIC ユーザテーブルを設定する際、HULFT Ver.8未満で作成した EBCDIC ユーザテーブルを使用できるように記載されています。
- ② アドミニストレーションマニュアル (1版～3版) の「EBCDIC ユーザテーブルの設定について」に記載されている JCL 例は、ロードモジュールの変位に誤りがあります。
- ③ バージョンアップ導入時に使用する雛形 JCL (VERUP6、VERUP7) で導入を行うと、提供媒体から EBCDIC ユーザテーブル雛形 JCL を復元することができません。EBCDIC ユーザテーブルを設定する際、HULFT Ver.8未満で作成した EBCDIC ユーザテーブルを使用できるように記載されています。

3. 発生条件

導入マニュアル(1版～3版)のバージョンアップ手順に従い、HULFT Ver.8未満からVer.8.1.0へバージョンアップ導入した場合 (VERUP6またはVERUP7の導入作業用JCLメンバーを使用してバージョンアップした場合)、下記の条件をすべて満たすと発生します。

- ・ HULFT Ver.8未満で利用していたEBCDICユーザテーブル雛形JCLを使用して、EBCDICユーザテーブルを設定する。
- ・ HULFT8 for zOS側でEBCDICユーザテーブルを使用したコード変換を行う。

操作ログの発生条件は、上記条件の状態の下記の条件をすべて満たすと発生します。

- ・ 操作ログ出力選択 (OPLSELECT) に1～3を設定する。
- ・ 操作ログEBCDICコード(OPL EBCDIC)にIBMカナ文字拡張(H)を設定する。

お客様のHULFT運用において、EBCDICユーザテーブルを使用しているかどうかのご確認、および修復につきましては、「別紙」を参照してください。

4. 対象製品・バージョン

HULFT8 for zOS Ver.8.1.0

※ Ver.8未満は対象外です。

5. 正式対応版の提供について

本障害の正式対応版として、HULFT8 for zOS Ver.8.1.1をリリースいたしました。

最新のマニュアルやモジュールを入手する場合は、弊社ダウンロードサイトよりダウンロードをお願いいたします。

※ リビジョンアップ版のご提供には、サポート契約の締結が必要となります。

【改訂履歴】

2016年8月3日	初版作成
-----------	------

以上

別紙

提供媒体から復元した EBCDIC ユーザテーブル雛形 JCL を使用して、EBCDIC ユーザテーブルを設定してください。

以下の手順に沿って対応してください。

①. 確認手順

EBCDIC ユーザテーブルの設定を有効にしたことがあるかどうかの確認は、IBM 様提供のユーティリティ AMBLIST を実行することにより確認できます。

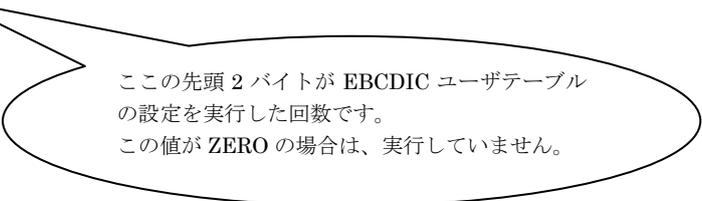
確認方法は下記のとおりです。

- AMBLIST を実行する。

```
//AMBLIST EXEC PGM=AMBLIST,REGION=4096K
//SYSLIB DD DSN=HULFT ロードモジュールライブラリ,DISP=SHR
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//SYSIN DD *
LISTLOAD MEMBER=XREBCAS2,OUTPUT=MODLIST
LISTLOAD MEMBER=XREUCEB2,OUTPUT=MODLIST
LISTLOAD MEMBER=XREBCEU2,OUTPUT=MODLIST
LISTLOAD MEMBER=XRBREAK,OUTPUT=MODLIST
//
```

- この実行結果の下記の箇所を確認することにより、実行したかどうか確認することができます。

```
RECORD# 2      TYPE 80 - IDR      SUBTYPE 01      DATA SIZE 248
01000316  204FD5D6  40C9C4C5  D5E30003  16204FD5  D640C9C4  C5D5E
```



この先頭 2 バイトが EBCDIC ユーザテーブルの設定を実行した回数です。
この値が ZERO の場合は、実行していません。

AMBLIST の使用方法につきましては、IBM 様提供のマニュアルを参照してください。

- z/OS MVS 診断: ツールと保守援助プログラム
- (英) z/OS MVS Diagnosis: Tools and Service Aids

②. 修復手順

1. 提供媒体から HULFT ロードモジュールを復元してください。
2. 提供媒体から HULFT JCL ライブラリを別のライブラリで全て復元し、その中の JCL メンバーを使用して再度設定し直してください。

変換コード	JCL メンバー名
EBCDIC → ASCII (Shift-JIS)	XREBCASC
EBCDIC → ASCII (EUC-JP)	XREBCEUC
ASCII (EUC-JP) → EBCDIC	XREUCEBC
ASCII (EUC-JP) → EBCDIC	XREUCCNV (※)

※結合ファイル分解プログラム(XRBREAK)で EBCDIC ユーザテーブルを使用していた場合

3. 外字テーブルを使用していた場合、導入マニュアルの「外字テーブルの作成および復元」を参照して外字テーブルを使用できるようにしてください。